

平成 年 月 日

 医院
 院長 殿

研究へのご協力のお願い

私は、現在聖路加看護大学大学院に在籍し、透析患者のための災害時看護支援について博士後期課程で研究しております。この度、「東日本大震災で津波被害を受けた透析患者の経験に関する調査研究」を実施するにあたり、研究へのご協力をお願い致します。

【研究の目的、意義、方法】

災害時要援護者の中でも、透析患者は早期に医療的支援を受ける必要があります。透析患者の原疾患の変化、長期療養化、高齢化と日常生活の支援者であるご家族の高齢化により、日常生活に支援を必要としない患者様も、災害時には要援護者になる可能性が高い状況です。そのような中で透析患者の支援を考える際、最も基本となる患者様自身の経験や心境を明らかにする必要がありますと考えました。そこで、本研究のテーマを、「東日本大震災で津波被害を受けた透析患者の経験」とし、自施設での透析ができず、他施設で透析を行った経験をもつ患者様自身が、震災の経験をどのように意味づけているのかを明らかにすることを目的としました。本研究結果は、透析患者のニーズに基づいた災害時の支援体制づくりと日々の患者支援の基礎資料となると考えております。

貴医院の透析患者様の中で、被災前後から今に至る患者様自身の状況や心境を語ることが可能な方の紹介をお願い申し上げます。また、インタビュー調査をきっかけにフラッシュバックが生じた場合の対応についても、安心できる場所の確保や診察などご協力いただけると幸甚です。また、必要時専門医をご紹介いただけますようお願い申し上げます。

研究対象者： 東日本大震災の経験を持つ40歳以上の透析患者で同居家族及び2親等以内の家族を震災で亡くしていない方。また、認知症など認知に問題のない方。

方法： 面接によるインタビュー調査（1時間程度、数回行う予定）

期間： 年 月 日 ～ 年 月 日

【研究にご協力いただくことで期待される利益】

医療スタッフの皆様にとって、直接的な利益はありませんが、患者様ご自身にとっては、体験を語るにより、癒しがもたらされる可能性があります。また、本研究結果が透析患者支援の基礎資料となり、災害対策や日々の支援に役立つ可能性があります。

【研究にご協力いただくことで予想される不利益】

本研究にご協力いただくことで、皆様と患者様の貴重なお時間をいただくことになります。また、患者様におかれましては、被災後の想いをうかがう際に被災体験のフラッシュバックが生じる可能性があります。

【倫理的配慮】

- ・ インタビューは、文書を用いて趣旨を説明したのち、院長先生及びご本人に同意を得られ、同意書に署名をいただいてから実施致しますが、面接の途中や終了後に御断りをいただくことが可能です。
- ・ 面接の内容は、ICレコーダーで許可を得て録音させていただきますが、録音後すぐに個人が特定できないようにデータ化をします。
- ・ データ化された情報は、施錠のできる書庫に保管し、分析終了後3年間保管した後に破棄致します。
- ・ 研究結果は、博士論文として公開し、学会及び学会誌等で公表する予定です。
- ・ また、インタビューにより被災経験のフラッシュバックが生じた場合は、面接を終了し、その場で十分な休息をとっていただきます。

なお、ご不明な点がございましたら、下記連絡先までお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

研究者：石田千絵

所属機関：聖路加看護大学大学院 地域看護学領域

所属機関住所：東京都中央区明石町10-1 聖路加看護大学

研究用携帯番号：〇〇-〇〇-〇〇

指導教員：麻原きよみ（聖路加看護大学大学院 地域看護学教授）

医院
看護師長 殿

研究へのご協力をお願い

私は、現在聖路加看護大学大学院に在籍し、透析患者のための災害時看護支援について博士後期課程で研究しております。この度、「東日本大震災で大津波被害を受けた透析患者の経験に関する調査研究」を実施するにあたり、研究へのご協力をお願い致します。

【研究の目的、意義、方法】

災害時要援護者の中でも、透析患者は早期に医療的支援を受ける必要があります。透析患者の原疾患の変化、長期療養化、高齢化と日常生活の支援者であるご家族の高齢化により、日常生活に支援を必要としない患者様も、災害時には要援護者になる可能性が高い状況です。そのような中で透析患者の支援を考える際、最も基本となる患者様自身の経験や心境を明らかにする必要があると考えました。

そこで、本研究のテーマを、「東日本大震災で大津波被害を受けた透析患者の経験」とし、自施設での透析ができず、他施設で透析を行った経験をもつ患者様自身が、震災の経験をどのように意味づけているのかを明らかにすることを目的としました。本研究結果は、透析患者のニーズに基づいた災害時の支援体制づくりと日々の患者支援の基礎資料となると考えております。

貴医院の透析患者様の中で、被災前後から今に至る患者様自身の状況や心境を語ることが可能な方の紹介をお願い申し上げます。また、インタビュー調査をきっかけにフラッシュバックが生じた場合の対応につきましても、安心して横になれる場の確保などご協力いただけると幸いです。

研究対象者： 東日本大震災の経験を持つ40歳以上の透析患者で同居家族及び2親等以内の家族を震災で亡くしていない方。また、認知症など認知に問題のない方。

方法： 面接によるインタビュー調査（1時間程度、数回行う予定）

期間： 年 月 日 ～ 年 月 日

【研究にご協力いただくことで期待される利益】

医療スタッフの皆様にとって、直接的な利益はありませんが、患者様ご自身にとっては、体験を語るにより、癒しがもたらされる可能性があります。また、本研究結果が透析患者支援の基礎資料となり、災害対策や日々の支援に役立つ可能性があります。

【研究にご協力いただくことで予想される不利益】

本研究にご協力いただくことで、皆様と患者様の貴重なお時間をいただくことになります。また、患者様におかれましては、被災後の想いをうかがう際に被災体験のフラッシュバックが生じる可能性があります。

【倫理的配慮】

- ・ インタビューは、文書を用いて趣旨を説明したのち、院長先生及びご本人に同意を得られた後、それぞれ同意書に署名をいただいてから実施致します。
- ・ 同意書に署名を頂いた後でも、面接の途中や終了後に御断りをいただくことが可能です。
- ・ 面接の内容は、ICレコーダーで許可を得て録音させていただきますが、録音後すぐに個人が特定できないようにデータ化をします。
- ・ データ化された情報は、施錠のできる書庫に保管し、分析終了後3年間保管した後に破棄致します。
- ・ 調査結果は、博士論文として公開し、学会及び学会誌等で公表する予定です。
- ・ また、インタビューにより被災経験のフラッシュバックが生じた場合は、面接を終了し、その場で十分な休息を取っていただきます。

なお、ご不明の点がありましたら、下記連絡先までお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

研究者：石田千絵

所属機関：聖路加看護大学大学院 地域看護学領域

所属機関住所：東京都中央区明石町10-1 聖路加看護大学

研究用携帯番号：〇〇-〇〇-〇〇

指導教員：麻原きよみ（聖路加看護大学大学院 地域看護学教授）

平成 年 月 日

様

研究へのご協力をお願い

私は現在、聖路加看護大学大学院に在籍し、透析患者様のための災害時看護支援について博士後期課程で研究しております。この度、東日本大震災で大津波被害を受けられた透析患者の皆様のご経験に関する調査研究を実施することになりました。以下の説明をお読みいただき、可能であればインタビューにご協力いただけますようお願い申し上げます。

【研究の目的、意義、方法】

透析をされている皆様は、災害後の早い時期に透析を行う必要があります。そのため、災害時の対策を今後も考えていかななくてはなりません。そして、その対策を考える際に、患者様ご自身の経験や心境を明らかにすることが、一番大切なことだと思っております。

そこで、研究のテーマを、「東日本大震災で大津波被害を受けた透析患者の経験」とし、患者様ご自身がどのような経験をされ、どのように考えていらっしゃるかを丁寧に書きとめることを目的としました。

研究結果は、患者様の想いに基づいた災害時の支援体制づくりと日々の支援に役立つ資料となると考えております。

そこで、被災前後から今に至るまでの透析に関する経験と想いや考えの変化などについて伺いたく、ご協力をお願い申し上げます。

方法 : 1時間位インタビューをさせていただきます。可能であれば数回行います。

内容 : 東日本大震災前後から今に至るまでの透析への想いや考えの変化等について

期間 : 年 月 日 ～ 年 月 日

【研究にご協力いただくことで期待される利益】

ご自身の体験を語ることにより、気持ちがすっきりする可能性があります。また、本研究結果が透析患者様の災害時支援に役立つ可能性があります。

【研究にご協力いただくことで予想される不利益】

本研究にご協力いただくことで、皆様の貴重なお時間をいただくことになります。また、被災後の想いを語っていただく際に、気分がすぐれない等の不快な症状が生じる可能性があります。

【倫理的配慮】

- ・ インタビューは、文書で説明し同意を得られた後に、同意書に署名を頂いてから実施致します。同意書に署名された後、面接の途中や終了後に御断りいただいても大丈夫です。
- ・ 面接の内容は、許可を頂いてから録音をさせていただきます。録音が難しい場合は、メモを取らせていただきます。録音やメモは、誰が話をしたかわからないように致します。
- ・ 録音やメモは、分析終了後3年間、カギのできる書庫に保管した後に破棄致します。
- ・ 調査結果は、博士論文として公表し、学会及び学会誌等での公開をいたします。
- ・ インタビューにより気分がすぐれない等の不快症状が生じた場合は、すぐに面接を終了し、十分に休息を取っていただいた後、必要時医師に診てもらえるように致します。

本研究にご協力いただける場合は、お手数ですが、別紙「同意書」へのご署名をお願い致します。尚、ご不明な点がございましたら、下記連絡先までお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

研究者：石田千絵

所属機関：聖路加看護大学大学院 地域看護学領域

所属機関住所：東京都中央区明石町 10-1 聖路加看護大学

研究専用携帯電話番号：〇〇-〇〇-〇〇

指導教員：麻原きよみ（聖路加看護大学大学院 地域看護学教授）

平成 年 月 日

会長 様

研究へのご協力をお願い

私は、現在聖路加看護大学に在籍し、透析患者様のための災害時看護支援について研究しております。この度、「東日本大震災で津波被害を受けた透析患者の経験に関する調査研究」を実施するにあたり、研究へのご協力をお願い致します。

【研究の目的、意義、方法】

災害時要援護者の中でも、透析をされている皆さまは早期に医療的支援を受ける必要があります。透析患者様の原疾患の変化、長期療養化、高齢化と日常生活の支援者であるご家族の高齢化により、日常生活に支援を必要としない患者様も、災害時には要援護者になる可能性が高い状況です。そのような中で透析患者様の医療支援を考える際、最も基本となる患者様ご自身の経験や心境を明らかにする必要があると考えました。そこで、本研究のテーマを、「東日本大震災で津波被害を受けた透析患者の経験」とし、患者様ご自身が震災の経験をどのように意味づけているのかを明らかにすることを目的としました。

本研究結果は、透析患者様の想いに基づいた災害時の支援体制づくりと日々の支援の基礎資料となると考えております。

そこで、被災時後から今に至るまでの透析に関する想いや考えの変化などについて透析患者様に伺いたく、ご協力いただける方のご紹介をお願い申し上げます。

方法：1時間くらいインタビューをさせていただきます。可能であれば数回行います。

内容：東日本大震災を受け、今に至るまでの状況や心境について

期間： 年 月 日 ～ 年 月 日

【研究にご協力いただくことで期待される利益】

医療スタッフの皆様にとって、直接的な利益はありませんが、透析患者様ご自身にとっては、体験を語るにより、癒しがもたらされる可能性があります。また、本研究結果が透析患者支援の基礎資料となり、災害対策や日々の支援に役立つ可能性があります。

【研究にご協力いただくことで予想される不利益】

本研究にご協力いただくことで、皆様と患者様の貴重なお時間をいただくことになります。また、患者様におかれましては、被災後の想いをうかがう際に被災体験のフラッシュバックが生じる可能性があります。

【倫理的配慮】

- ・ インタビューは、文書を用いて研究協力者に趣旨を説明し、同意を得られた後に同意書に署名をいただいてから実施致します。同意を得られた後に面接の途中で終了することも可能です。
- ・ 面接の内容は、IC レコーダーで録音をさせていただきますが、録音後すぐに個人が特定できないようにデータ化をします。録音が難しい場合は、メモを取らせていただきます。メモも難しい場合は、メモも取りません。その場合はご指示いただけると幸いです。
- ・ データ化された情報と録画された映像は、施錠のできる書庫に保管し、分析終了後3年間保管した後に破棄致します。
- ・ 調査結果は、学会及び学会誌等での公開をいたします。
- ・ また、インタビューにより気分がすぐれない等の不快症状が生じた場合は、面接を終了し、十分に休息を取っていただいた後、必要時医師に診てもらえるように致します。

本研究にご協力いただける場合は、お手数ですが、別紙「同意書」へのご署名をお願い致します。尚、ご不明の点につきましては、下記連絡先までお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

研究者：石田千絵

所属機関：聖路加看護大学大学院 地域看護学領域

所属機関住所：東京都中央区明石町10-1 聖路加看護大学

研究専用携帯電話番号：〇〇 〇〇 〇〇

指導教員：麻原きよみ（聖路加看護大学 地域看護学教授）

平成 年 月 日

医院
院長 殿

研究へのご協力をお願い

私は、現在聖路加看護大学に在籍し、透析患者のための災害時看護支援について研究しております。この度、「東日本大震災で津波被害を受けた透析患者の経験に関する調査研究」を実施するにあたり、研究へのご協力をお願い致します。

【研究の目的、意義、方法】

災害時要援護者の中でも、透析患者は早期に医療的支援を受ける必要があります。透析患者の原疾患の変化、長期療養化、高齢化と日常生活の支援者であるご家族の高齢化により、日常生活に支援を必要としない患者様も、災害時には要援護者になる可能性が高い状況です。そのような中で透析患者の支援を考える際、最も基本となる患者様自身の経験や心境を明らかにする必要があると考えました。そこで、本研究のテーマを、「東日本大震災で津波被害を受けた透析患者の経験」とし、患者本人が震災の経験をどのように意味づけているのかを明らかにすることを目的としました。本研究結果は、透析患者のニーズに基づいた災害時の支援体制づくりと日々の患者支援の基礎資料となると考えております。

この度、〇〇患者会を通して、貴医院の透析患者である〇〇様をご紹介いただきました。〇〇様へのインタビューをご承諾いただきたく、また、インタビュー調査をきっかけにフラッシュバックが生じた場合の対応についても、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

対象者：東日本大震災の経験を持つ40歳以上の透析患者で同居家族及び2親等以内の家族を震災で亡くしていない方

方法：面接によるインタビュー調査（1時間程度、数回行う予定）

期間： 年 月 日 ～ 年 月 日

【研究にご協力いただくことで期待される利益】

医療スタッフの皆様にとって、直接的な利益はありませんが、透析患者様ご自身にとっては、体験を語るにより、癒しがもたらされる可能性があります。また、本研究結果が透析患者支援の基礎資料となり、災害対策や日々の支援に役立つ可能性があります。

【研究にご協力いただくことで予想される不利益】

本研究にご協力いただくことで、皆様と患者様の貴重なお時間をいただくことになります。また、患者様におかれましては、被災後の想いをうかがう際に被災体験のフラッシュバックが生じる可能性があります。

【倫理的配慮】

- ・ インタビューは、文書を用いて研究協力者に趣旨を説明し、同意を得られた後に同意書に署名をいただいてから実施致します。同意を得られた後に面接の途中で終了することも可能です。
- ・ 面接の内容は、ICレコーダーで録音させていただきますが、録音後すぐに個人が特定できないようにデータ化をします。
- ・ データ化された情報は、施錠のできる書庫に保管し、分析終了後3年間保管した後に破棄致します。
- ・ 研究結果は、博士論文として公開し、学会及び学会誌等での公表する予定です。
- ・ また、インタビューにより被災経験のフラッシュバックが生じた場合は、面接を終了し、その場で十分な休息をとっていただきます。

なお、ご不明の点につきましては、下記連絡先までお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

研究者：石田千絵

所属機関：聖路加看護大学大学院 地域看護学領域

所属機関住所：東京都中央区明石町10-1 聖路加看護大学

研究用携帯番号：〇〇 〇〇 〇〇

指導教員：麻原きよみ（聖路加看護大学 地域看護学教授）

聖路加看護大学

学長 井部俊子 殿

研究への参加・協力の同意書

私は、「東日本大震災で津波被害を受けた透析患者の経験に関する調査研究」について説明文書を用いて説明を受け、内容を理解し、この研究に参加・協力することに同意します。

日付： 年 月 日

研究対象者氏名（署名）： _____

説明者（署名）： _____

聖路加看護大学 倫理審査委員会承認番号：12-050

聖路加看護大学

学長 井部俊子 殿

研究協力断り書

私は、「東日本大震災で大津波被害を受けた透析患者の経験に関する調査研究」についての研究協力に同意しましたが、この度、協力を中止することにしたので、通知します。

日付： 年 月 日

研究対象者氏名（署名）： _____